

基本項目記入数 25

チャレンジ項目記入数 8

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・材料、施工、廃棄の各段階で想定される産業廃棄物や有害化学物質を考慮し、設計を行っている。 ・事務所で発生するごみは、環境に配慮し適切に分別している。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1				
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・簡易計算シートを使って自社のエネルギー使用量を把握。目標を設定し、削減に取り組んでいる。 ・事務所内の照明は全てLED照明を使用し、節電に取り組んでいる。							7.3						13						
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		・簡易計算シートを使って自社のCO ₂ 排出量を把握し、削減に取り組んでいる。 ・アイドリングストップを推奨し、取り組んでいる。		2.4					7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15				
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・河川工事の設計にあたり環境に配慮された資材の使用や緑地の整備を提案する等、生態系保全に取り組んでいる。 ・事務所で排出されるプラスチックごみは適切に分別しリサイクル回収に持ち込むことで、海洋の生態系保全に貢献している。						6.6									14	15			
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・ペーパーレス化を推進し、事務所では裏紙を利用することで効率的な紙資源の利用に取り組んでいる。										9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15			
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・排水管、下水管の工事設計を行うことで、水資源の質の保全に貢献している。 ・設計段階において浸透ますの設置を提案し、地下水保全に取り組んでいる。 ・事務所では節水を心がけるよう従業員へ声かけを行うことで、熊本の水資源の保全に貢献している。		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6					11.5				14.1 14.2 14.3	15		17	
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・社内の備品は、エコマークや環境認証付きのコピー用紙や文具等、環境に配慮された製品を優先して購入している。										9.4			12.4 12.5	13	14	15			
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●				1	2				6.4							12.3		14	15		17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●															11.6 11.7		13.1 13.3		15		17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。	●		・事務所内の照明は全てLED照明を使用し、節電に取り組んでいる。								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4			11.5		13.1 13.3				
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・"伐って、使って、植えて、育てる"の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●									6			9.4			11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●									6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●		・事務所で排出されるプラスチックごみは回収BOXを用いて適切に分別し、リサイクル回収に持ち込んでいる。														12.2 12.5		14			
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●												9.4			11.2		13.1 13.3				
36	【2050年CO ₂ 排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO ₂ 排出実質ゼロを目指し、計画的にCO ₂ 削減に取り組んでいる。	●												9.4			11.6 11.a	12.8	13				17.2	

